

100年の経営・技術ノウハウの未活用を分析し、全社的なデータ棚卸しとAIおよびBIの導入を検討。技術継承のデジタル化と意思決定の高度化により、次の100年を担う企業モデルを構築する計画を策定。

株式会社コダマ				https://k-kodama.co.jp/	
本社所在地	松江市富士見町1-3	資本金	2,000万円	事業概要	鋳造、プラントエンジニアリング、溶射
代表者名	児玉 泰州	従業員数	51名		
設立年	1947年	業種	製造業		

背景

- 長年培った技術ノウハウや品質データが整理・蓄積されておらず、次世代への継承や現場の省力化に十分に活用できていない。
- 生産性向上や人手不足解消のためAI活用を目指しているが、その土台となる社内データの所在把握やガバナンス体制が未整備である。
- 「技術×データ×組織」の連携を掲げ、将来的にSaaS構築や新規サービスを構想しているが、まずは全社的なデータの棚卸しが必要なフェーズにある。

計画の骨子

全社データ資産の棚卸しと管理

- ▶ 各部門のデータ所在と整備状況を可視化し、データ資産マトリクスを作成してAI・BI導入の優先順位を明確化することとした。
- ▶ 部門間の情報連携を促進し、将来のデータガバナンス構築に資する強固な情報基盤を整備する計画を策定した。

暗黙知の形式知化と意思決定DX

- ▶ 方針管理や品質・不具合データの体系化を推進し、経営層から現場までが共通のデータに基づいて迅速に判断できる体制を構築することとした。
- ▶ 技術ノウハウを組織の資産として蓄積し、データ活用による新価値創出と収益体質の強化を目指す方針を策定した。